NPO 法人フォルダ＆早稲田大学生による仮設住宅での支援活動とクラブ創設

NPO 法人フォルダ　司東道雄

NPO 法人フォルダは、平成 17 年に設立された岩手県北上市にあるクラブです。震災直後から、市内 2 か所のクラブの指定管理者施設で避難所を開設し、同時に、車で 1 時間 40 分かかる岩手県の沿岸部へ、毎日、支援物資を運ぶ活動をしてきました。そのほか、炊き出しはもちろん安否確認、映画・写真展・コンサートなどの文化的な活動や様々なイベントを、有志による復興支援団体「いわてゆいっこ」の会と一緒に行ってきました。半年過ぎてから頻度は週 1 回程度になりましたが、ご縁ができた沿岸部の地域に今でも出向いて活動しています。

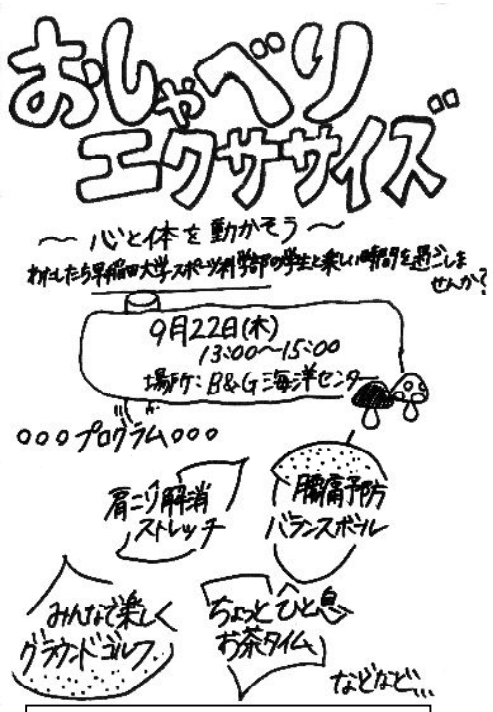
フォルダの支援活動で特筆すべき点が、「ツイッター」を使った支援です。震災後、リアルタイムで必要な物をつぶやくと、それに呼応して全国から支援物資が集まってきました。食料品や生活用品のほか、「ガソリンや車が不足」とつぶやけば、どこからか届けられてきました。なんと、ヘリコプターまで調達することができました。

津波の被害が大きく何度も通った岩手県大船渡市には、規模の大きい仮設住宅が作られていますが、運動の機会がなく、住民の孤立化が心配されていました。仮設住宅の住民は高齢者が少なくありません。ですので、大学生による運動指導や世代間交流の機会がつくれたらと思い、早稲田大学スポーツ科学部の知人を通して、「地域スポーツクラブマネジメント」の授業を受けている学生達を誘ってみました。

学生約 180 名のうち 30 名から「興味がある、行ってみたい」との意思表示がありました。最終的に来ることができたのは 8 名でした。9 月 19 日～23 日、交通費と食事・銭湯代は自前で参加するという条件でした。事前に大枠のスケジュールをたてましたが、詳細は決めませんでした。学生から問い合わせもありましたが、「被災された方の話を聞いてから考えよう」と伝えました。臨機応変に対応できる力を身につけてほしいからです。

9 月 19 日、学生達は夜行バスで東京をでて、20 日の早朝、北上に到着しました。正味 3 日間です。初日は、大船渡市体育協会、避難所となっていた長源寺、仮設住宅などを訪問し、震災当時から現在までの状況、運動実践の有無などの話を聞きました。大船渡市三陸町にある仮設住宅は体育館が近くにあることがわかり、その 130 世帯ある仮設住宅を拠点に今回の活動を実行することになりました。

2 日目は初日に聞いた話をもとに、学生達ができることを持ちより実施内容を考えました。チラシも作成・配布しました。フォルダで行っているシニア運動教室のお手伝いもしてもらい、企画内容のヒントになったようです。



学生が企画・作成した手づくりチラシ

ちょうど大型台風の直撃にあい、仮設住宅でのチラシ配布時は暴風雨のピークでした。昼間の時間帯は留守も多く、迷惑にならない範囲でポストにチラシを入れました。学生達の考えで、人影が見えたら自己紹介して趣旨を説明しながらチラシを渡すようにしたとのことでした。

企画内容のポイントは、日頃運動不足の方々に、いかに楽しく体を動かしてもらうか、また、中高年者の多くが抱える肩こり・腰痛への対応や、おしゃべりをして気分転換をするといった目的をわかりやすく見せるようにしました。

3 日目は、企画したプログラム実行の日です。朝から必要な用具を揃え、「何人来てくれるだろうか」と心配な気持ちと一緒に出発しました。前日、下着まで濡れるほどの台風の中、130 全世帯にチラシを配った甲斐あって、12 名の参加をいただくことができました。

参加者 2 名＋学生 1 名のチーム対抗
グラウンドゴルフ、盛り上がりました！

孫のような肩もみサービス

軽い準備体操、ストレッチやダンス、世代を超えたチーム対抗戦でのグラウンドゴルフでは、体育館いっぱいに明るい声が響き、「ちょうどいい感じで、久しぶりに汗をかいた！」と言ってもらえました。おしゃべりタイムでは肩もみのサービスも好評でした。何をしても喜んでもらえました。学生達にとっては、勉強したことが実際に活かせるいい機会になったようです。

「これまでほとんど体を動かす機会はなかった」という仮設住宅の方々に、単発ではなく是非継続していただきたいので、「これを機会にクラブをつくりませんか」と地元に提案しました。10 月 20 日、岩手県・岩手県体育協会・大船渡市・大船渡市体育協会・フォルダで合同会議を開催、11 月にクラブの活動を開始し事業計画等 12 月までに策定することの合意がなされました。東日本大震災被災地で、平成 23 年度中に総合型地域スポーツクラブが立ち上がります。

学生達の熱心なボランティア活動がきっかけになり、フォルダが協力して被災地での「クラブ創設」の実を結びました。学生のみなさん、おつかれさまでした。何度でも来てくださいね！

ボランティアで企画・運営した早稲田大学スポーツ科学部の 8 名の学生と、12 名の参加者

【参加した学生に聞く「１．参加理由」「２．被災地や仮設住宅で必要とされていると思うこと」】
（五十音順）

●飯塚美雪さん（スポーツ科学部２年）
１）早大生のときに大震災が起こったという事実は一生忘れないと思います。20 歳になったこの身体でなにか感じるものがあれば、という気持ちで参加しました。
２）長いスパンでの行政のあたたかな支援が不可欠だと思います。

●江藤貴美子さん（スポーツ科学部３年）
１）ずっと被災地にボランティアに行きたいと思っていました。でも、泥かきなどの力仕事では逆に迷惑をかけてしまうと思い、参加できずにいました。今回のボランティア活動なら自分が持っている知識などが役立つと思い参加を決めました。
２）衣食住は安定してきたと思うので、次は心から楽しいと思えるようなこと、ものが必要なのかなと思います。

●梅村千里さん（スポーツ科学部３年）
１）４歳のころに経験した阪神淡路大震災、そのときにも多くのボランティアの方々にお世話になったことを幼心にも記憶しており、今回大きな被害のあった東北の方々の力に少しでもなりたいと思い、また、その力のなり方に関してレベルの高いことはできずとも、少なからず自身が大学で学んでいるスポーツ関係の事柄を役に立てられればと考え、今回のボランティア参加を決意しました。
２）被災地の方が求めているものは、地域やご近所のなかでこれまで築き上げてきたつながりをまた取り戻すことではないかと考えます。仮設住宅に入ったり、引越しをせざるをえなかったりでどうしてもうすくなってしまったそのつながりをコミュニティの場をつくることで少しずつでもまた培っていけると思います。

●大石俊介さん（スポーツ科学部２年）
１）震災の現状を実際に肌で感じてみたかったからです。また、今回のように、現地でボランティアを続けていらっしゃる方たちのサポートを受けられるのであれば、未熟な自分が被災地へ迷惑をかける可能性も低くなるのではと思ったことも理由の一つです。
２）人によって異なると感じました。ただ、「スポーツ」に関していえば、求められている地域は必ずあると思います。しかし、「スポーツ」はすべての人にとって、良いものではありません。「スポーツ」を押し付けるのではなく、あくまで、一つの要素だという、姿勢で考えることが重要だと感じました。

●北洞 航 さん（スポーツ科学部３年）
１）初めて身の危険を感じた災害の恐ろしさを自分の目で見なければいけないと思い参加しました。
２）被災したことを恨み、心が荒んでいくのが恐ろしい。打ち込める活動を用意する事、人と触れ合う機会を作る事が必要です。司東さんのおかげで人生の中でも貴重な体験ができ、多くの学びを得ました。ありがとうございます。本日岩手に二度目の訪問をします。前回同様おしゃべりエクササイズを行います。今日もボランティアとして勉強しに行ってきます。（10 月 20 日）

●久保勇人さん（スポーツ科学部３年）
１）スポーツの力を活かし被災者の役に立ちたいと思い参加しました。
２）今後ボランティアに求められることは、被災者の心の支援や、生活のゆとり・豊かさを創出するなどといったソフト面での支援がより必要とされていると思います。

●佐鳥翔太さん（スポーツ科学部３年）

１）震災以降、テレビのニュースなどでは被災地の映像や状況をたくさん見聞きしていました。しかし、自分はいつもと変わらない生活をしていることにどこか疑問を感じていました。なので、何ができるか・意味があるかよりまずは実際に自分が行ってみようと思い参加しました。

２）先の具体的な見通し。

●高橋悠美子さん（スポーツ科学部３年）

１）私たちが学んできたこと、好きで続けてきた「スポーツ」を通じて何かをしたいと思いました。

２）「癒された」と何度もおっしゃっていたおばあちゃん。みんなで集まって何かをする、あたたかい時間が必要だと思います。

【NPO 法人フォルダ　プロフィール】

1. 設立　年月：平成 17 年 4 月

経緯：有志が集まって総合型地域スポーツクラブを勉強し、少しずつ事業を増やしながら設立した。

2. 地域　人口：北上市 93,549 人（平成 23 年 10 月 1 日現在）

特性：180 社以上もの企業誘致を成功させ、東北でも有数の流通・工業集積地に成長している。

3. クラブ　会員数：730 人　（平成 23 年 9 月 30 日現在）

特徴：「いいだしっぺ」が企画する方式がクラブの原点。

平成 23 年 4 月には指定管理施設計 10 カ所目を受託する。従業員が 25 名いる大型で革新的なクラブとして展開中。

予算規模：9,500 万円

4. 連絡先　住所：〒024-0033　岩手県北上市幸町 1-30

TEL・FAX：０１９７－６３－２３５９

Email：folder@kitakamicity.com

URL：http://folder.kitakamicity.com/